

## 第5回 益城町「平成28年熊本地震記憶の継承」検討・推進委員会

日時：2019年3月26日（火） 14:00～

場所：役場仮設庁舎会議棟2階大会議室

出席者：柿本委員長、竹内委員、田中委員、星野委員、坂田委員、坂井委員、菅委員、  
作本委員、坂田委員、赤星委員、吉村委員、森下委員

内容：

### 1. 開会

- （委員長）段々あったかくなってきた。3月卒業。卒業する子たちは、プレハブや校舎を行ったり来たりした子達。月日がたっていくのは早くいろんなことが変わっていく。大学の中ではプレハブは撤去されて地震がない状況で入ってくる。こういうことを後世に伝えていくというのは重要。この委員会でも3年前で起こったことを伝えていくという重要な使命を持っている。今年度最後の委員会。今年度の取りまとめと来年度以降どう進めて行くかを考えたい。

### 2. 第4回検討・推進委員会の議事概要

- ※事務局より資料3を用いて説明※

### 3. 各専門部会における今年度の活動報告

- ※各専門部会委員及び部会長より資料4～6を用いて説明※
- （部会長）資料5-1 一点修正。「震災遺構の活用方法の統一化を図る」→「震災遺構の活用方法の例を示す」と修正を。

### 4. 「みんなでツナグ 益城の記憶」vol.2の開催について

- ※事務局より資料7を用いて説明※

### 5. 委員討議

- 震災記念公園専門部会で、「校区ごとにこういうことをやりたい」という住民の声があったかと思うが、こういうことをやろうと思うと「公園」だと縛りがあると思う。これは「公園」という形で整理していくことになるのか。
  - 専門部会のぼんやりとした課題として考えているのは、「自分たちの活動は本当に『公園』部会なのか」ということ。ただ、最終的には場を設えていかなければならないので「公園」という言い方をしている。人が集まる場所という意味で表現している。
  - 制約にならないように、という点、気をつけてほしい。
  - 公園に関する条例も必要になるかもしれない。
  - 利用活用については、行政ができる部分と町民の方がする部分があると思う。それは明確に線引きできないと思う。早い段階から情報を提供しながらサポーターを作ったり、みんなで公園を作っていけるようになると良いと思う。震災記憶マップとふるさとキャンパスマップを誰がマネジメン

- トしていくのか、ということが大事。
- 震災記憶マップはこの委員会で実施していく。ふるさとキャンパスマップは議論には活用しているが、誰がどう運営していくか、は話ができている。
  - 同じような議論が震災遺構保存活用専門部会でも出ている。アーカイブ部会を作っていない。行政としても体制が必要かと思うが、委員会としてもそういう体制を組んだ方が良いと思っている。記憶の継承サポーターのようなものを委員会として募集できないかと思う。
  - 委員会としては難しいと思うが、ワーキンググループのような形では良いと思う。
  - 震災記憶マップをしようと思っているが、アーカイブの話も入ってきている。震災記憶マップはアーカイブと同じと思うが、そのあたりの連携もしくは住み分けはどうしていくか。
    - 町民一人ひとりが語り部になれるということを議論していて、それを公園部会とシェアできていると思うが、枠組みを作れていない。
    - 公園部会はコンテンツを作るというよりは、それを活かす場を作るということ。また、使いやすいようにデザインするという役割と認識している。たたきを作ってご意見をいただくということで考えている。
  - こういった活動をどういった形で広報していくか、情報発信していくかが重要。防災教育専門部会においてはサイトを利用して、ということだったが、委員会全体として情報発信をするというような計画はあるだろうか。
    - 記憶の継承検討推進委員会の活動報告の場として、「みんなでツナグ」を開催し、その場で報告を行っている。メディアを通してか HP を開設してということはやっていないが、来られた方に「こうのことをやっていますよ」ということを伝えている。第 1 回目で感触がよかったので、第 2 回目を開催する。イベントを通じて積極的に情報発信していきたいと考えている。
    - 皆頑張っているが、最初から良いものは難しいと思う。よく考えて広報していく必要がある。記憶の継承という委員会自体も前例がないので探りながらやっている。10 年、20 年経ったときに、「記憶の継承があつてよかった」と思ってもらえるように広報していきたいと思う。
  - 心配なのが、行政を初めとして先生方のセクションの異動など。そういうものがあるのか、ということ。先生方としてもあと何年か続いていくのかな、ということが心配。
    - 良くも悪くもそんなに大きな役場ではないので、劇的に変わることはないのではないか、と思っている。委員会が存続すれば続いていくのではないかと思う。マップづくりも H29 年度は大学で絵にまとめたが、それはあまり持続的ではないと思って、町に長く関われる人を仲間にしていかないと持続的ではないと思う。少しずつ始めている。地元を巻き込んでいくということは大事。
    - 防災教育の継続性について、2 月に実施した学校の防災担当者会議においても、県では防災主任を置いているので継続していく仕組みになっている。ただ、担当者の不安だったり心配事だったりがあることも明らかになっているので、益城町の教育委員会と連携して、学校としての活動を継続していくことができるのではないかと思う。また、自主防災組織を設立していただいているので、組織ができれば話をする場があり、そこで避難訓練だけでなく、記憶を語り継いでいく場として実施してもらえれば、継続性が期待できると思う。学校の防災教育だけ、地域だけ、と

- いうことではなく、復興と次の災害に向けた時間的なつながりも話をしながら調整したいと思う。
- 継続するといったときに、誰かが引いてしまうとなかなか継続が難しいということが心配だと思ふ。シンプルで手間がかからない形を作っていくべきだと思う。みんながくたびれるような仕組みだと継続は難しいと思う。また、わざわざこういうことをやっているというのは、記憶を継承するということであればアーカイブしておいて引っ張り出せば良いと思うが、地域づくりの中にこういうのをどうやって落とし込んでいか、経済の方にフィードバックされてお金が回る仕組みができないと地域の人に関わり続けるのは難しいと思うので、基盤を整備することで、どういう経済的な効果が出せるかを考えていけると良いと思う。町の人にはボランティアだけで入ってきにくい。お金を生むシステムをどう作るかが大事と感じた。
  - 情報の公開という話があったが、委員会の議事録等を広報に載せてもらわないと伝わらない。委員からは知り合いくらいにしかいけない。段階的なところを住民に示していくということが大事。町民全員が語り部に、ということであればそういう知らせていくということも大事。元大川小学校長は当時の小学校の先生か。学校の先生だけでなく、全員にやってほしいところ。
    - 学びの場をどう作っていくのか、ということで、語り継ぎという活動に移って行っているが、専門家から学ぶことも大事だが、益城町ってどういうところなのというところから、そういうことをしっかり学んだ子たちがつなげていけるのではないかと思う。公教育でやっていくということも大事。「記憶の継承」では何をやっているのか、というリーフレットが必要。
  - 新庁舎で展望コーナーを作るとのことだが、何を展望させるために作るのか。
    - 新庁舎として、とは答えられないが、記憶の継承から庁舎に要望したことといえば、益城を回っていただく時に、最初に全体を眺望させて概要を話したいというのがある。そのときにどこが良いかというときに、町の中の高いところにあつて、高い建物から、益城の構造をアクセスしやすい場から見られるという意味で、役場の上というのは良いのではないかと思う。
    - 外部から人が入ってくると行政が混乱することはないか。
    - それは建築家の腕という部分になるのではないかと思う。
  - 拠点というのは役場が拠点となるか？
    - 色々議論してきたが、中心拠点としては役場は外せないだろうと思っている。いわゆる役場だけにこだわる必要はないかという議論は出てきている。復興まちづくり支援施設や複合施設や、カチッと固まっていない計画が周辺にあるので、役場を外すということはないが、役場だけに任せることもないのではないか、という議論をしているところ。
    - 全体がぼんやりとしていて、継承していくときのシンボリックなものがある方が継続性があるかなと思っている。
    - 役場に隣接して区画整理の中で公園ができるし、建物ではなくそちらがメインになるとか、そういう動きしろとかが見えていない状況。そういう事業をウォッチしながら、口うるさく言っていないと忘れられるといけないと思っている。
  - 継続的に議論しながら、お互いの連携、公園は基盤の整備となるし、その上にあるもの、それを使いながら教育とするもの、という縦側にどうつないでいか。その上で住民の方が活動していくことになる

思うので、情報発信が大事だと思う。こういう活動は息長く続けていく必要があるので、決して息切れしないように続けて行っていただきたい。

今年度は最後だが、4月になっても続いていくと思うので、引き続きよろしく願いたい。

## 6. 事務連絡

- (事務局) 議事録の一般公開について、HPでは公開しているがそれだけでは伝わらないので、広報まじきに記事を継続的に掲載するとか、いろんなメディアを使いながら伝えていこうにしたいと思う。H30年度はこちらで終了だが、H31年度は早い時期にやらなければならない。H29年8月11日付で委嘱しているので、それから2年以内にもう一度実施したいと考えている。できれば7月中には開催したいと考えている。日程調整のうえご連絡させていただくので、よろしく願いたい。

## 7. 閉会